



人材について検討し、ワークショップを二度開催しました。今後取り組むべき課題として、情報発信の強化、国際化、学会誌の充実、会員数の増加、ほかの学会とのつながりを強化することが挙げられます。その点、貴学会との交流を深めることができれば幸いです。10月28、29日には年次学術大会を京都で行います。ご興味があればぜひご参加ください。

イノベーションは不確実性を伴い、リスクが生じますが多面的な視野に基づいて、考え、情報収集をし、分析をし、戦略を練ることが可能となります。そのうえ、立てた戦略に基づいて実行し、当初の目標と照らし合わせて評価し、戦略を練り直すことが考えられます。技術経営とは理論と実践の狭間に存在する学問です。したがって理論について学ばなければ、適切なアクションプランは作ることは困難であります。また、実行に移した後でアウトカムに変化が現れると、それを捉え、新たなモデルなどを組み立てることが可能となります。つまり、理論と実践は相互に関連し合って、相互作用を起こしながら、前進していくと考えられます。今後さらなる研究の成果が期待される領域です。

技術経営と経営工学の違いについて一言述べたいと思います。経営工学とは、マネジメントや経営において、工学的手法を使う分野であります。技術経営とは、技術を企業やそのほかの機関の重要な資産として捉え、企業（やそのほかの機関）のビジョンや目標を達するために、技術的資産を戦略的に行う、マネジメントのことです。技術経営では課題が何なのか考える力、問題設定力が重要であり、経営工学では問題解決力が重要であると思われます。技術経営とORは対象や手法が異なりますが、補完的な関係が見られる分野であり、対話を行うことによって新たな気づき、相互学習が生まれることを期待します。

本学会は貴学会の60周年と比べてまだ若い学会ですが、この分野の学会としてはもっとも早く設立されました。今後の30年に向けて、さらに先端的役割を果たして行くために、皆さまと力を合わせて進んで参りたいと思います。

(宮崎久美子 東京工業大学環境・社会理工学院イノベーション科学系 教授)